

## ■研究レポート■

# バルトーク 《子供のために》の演奏法への提言 ——実践と分析を通して——

田代 慎之介

## 序

ハンガリーの作曲家ベラ・バルトーク（1881-1945年）は、膨大な民謡を収集して科学的な分析を元に貴重な記録を作成すると共に自らの作品に昇華させ、音楽史上に確固とした地位を築いた。1905年、コダーイのアドバイスによりバルトークはハンガリー国内での民謡収集を始め、徐々にその範囲をルーマニアやスロヴァキアに広げ、さらにアフリカのサハラ砂漠やトルコの地を訪れている。

本研究レポートは、《子供のために》第1巻、第2巻について取り上げる。1908～09年に書かれたこれらは、当初ハンガリー民謡編Ⅰ、Ⅱとスロヴァキア民謡編Ⅰ、Ⅱとして1909年にロジュニヤイ社から出版され、作曲者が渡米後の1943年に自身の手で改訂され、現在の第1巻40曲ハンガリー民謡編、第2巻39曲スロヴァキア民謡編の全79曲にまとめられた。現在演奏されるのは、殆ど改訂版である。

第1巻はハンガリー民謡、第2巻はスロヴァキアの民謡によって書かれ、例外を除き民謡の歌詞も全て巻末に掲載されている。本研究では、その内容を把握してバルトークがどのように曲想に反映させているかを全79曲について検証し、如何にして実際の演奏に活かすべきかを考察する。各曲における調性や音域、曲の構成、旋律線や表現上（アーティキュレーション、デュナーミク、フ



【譜例1】

レーズの性格、和声法等)の特徴を明らかにして作曲者の意図を汲み取ることは、総合的に曲想を生かす演奏法と結びつく。

多くの曲に付けられている題名については、音楽之友社版(2005, 2006 パップ晶子編)に準拠し、民謡の歌詞の概要についても同版の訳出を元にした(歌詞と表記)。音高表示は【譜例 1】の通り、音名はドイツ表記とし、小節数は①、②と表わす。

## 第 1 巻ハンガリー民謡編

### 第 1 番 Allegro 〈子供の遊び〉

歌詞：焼こうよ、焼こうよ何かを 小麦粉から丸いのを とっても甘い詰め物入りを

ハ長調。24 小節。音域は 1 オクターブと 5 度 ( $c^1 \rightarrow g^2$ )。子供の遊び歌らしく細かいアーティキュレーションが弾んだ曲想を生み出している。明るく軽いサウンドが子供の為の曲集の開始に相応しく、二部形式における後半部分の多声的書法を活かす左手のタッチが曖昧にならぬよう気をつけたい。

### 第 2 番 Andante 〈子供の歌〉

歌詞：お日様、照らしておくれ 聖ジェルジの日<sup>1)</sup>よ 庭のむこうで小羊が 凍えてしまうよ

ハ長調。29 小節。音域は 1 オクターブと 6 度 ( $c \rightarrow a^1$ )。第 1 番より 1 オクターブ低く、子羊を思う優しさが暖かく表現される。8 小節の旋律が左手のハーモニーの変化を伴って 3 回繰り返され、最初は  $c$  をバスに、2 回目は  $e$  をバスに  $cis$  と  $b$  が効果的に用いられ(旋法的な色合いを付加している)、3 回目は  $f$  のバスから  $c$  の終止音に導かれる。2 度目の提示では末尾が反復され「 $\triangleright$ 」が付されているので、手首の柔軟性が必要。

### 第 3 番 Quasi adagio 無題

歌詞：いなくなってしまった 妙齢の美しい娘が 帰ってきておくれ リディという名の娘

ドリア旋法。25 小節。音域は 1 オクターブと 5 度 ( $a \rightarrow e^2$ )。娘が嫁いでいった後の喪失感が歌われる。10 小節の民謡がドリアの 6 の和音を伴った  $a$  上の保続する伴奏型の上に 2 回繰り返され、余韻を表現するような 7 小節(⑱~㉓)が続いて終止する。細やかなスラーによるニュアンスと「 $\triangleleft$   
 $\triangleright$ 」の指示が特徴的であり、手首を柔軟に使うべきである。

### 第 4 番 Allegro 〈枕踊り〉

歌詞：ハンカチをなくしちゃった 母さんに叱られる 見つけてくれたら キスしてあげる

ハ長調。51 小節。音域は 2 オクターブと 5 度 ( $c \rightarrow g^2$ )。細かい動きが連続する楽しさに満ちた 8 小節の民謡が 3 回現れる。2 回目の提示では 5 度上げられ、元に戻る 3 回目の提示後、14 小節の後奏が楽しさの余韻を奏でる。左の伴奏も保続音 ( $c \rightarrow g \rightarrow c$ ) 上に多声的な性格をもって小刻みに

1) 聖ジェルジの日は、4 月 24 日、春が始まる日 (パップ 2005, 81)。

動いており、左右ともに離鍵の良いタッチで明るく表現すべきである。

#### 第5番 Allegretto - Più mosso - Tempo I 〈遊び〉

歌詞：子猫ちゃん、きれいな娘は？ いるよ、でも金曜は働き木曜は宴会、水曜はお祈り  
ハ長調。52小節。音域は2オクターブと4度(G → c<sup>1</sup>)。この曲集では珍しく3部形式であり、優美な下行音型を中心とする主部と、テンポが上がり連打が特徴的な中間部からなる。主部の10小節は保続音上の4小節フレーズ(1 + 1 + 2)が2回、そして会話を思わせる2小節ごとのフレーズからなり、強弱の対比が大切である。中間部前半の2重音の連打はfなので、第1, 2指同時の連続が作曲者により指示され、後半の単音連打はpなので第1, 2指交互となる。

#### 第6番 Allegro 〈左手の練習〉

歌詞：ハイ、チューリップ 満開のカーネーション スカーフはセージと愛の炎でいっぱい  
エオリア旋法。57小節。音域は1オクターブと7度(H → a<sup>1</sup>)。左手の伴奏型は2重音の連打で貫かれ、情熱的な曲想に相応しい。柔軟な腕の状態のもと、指の支えをしっかりとらせて良いリズムで弾かなければならない。下行音型による8小節の民謡が4回提示され、毎回最終音にアクセントが来るので、それに合った息使いが大切である。また、歯切れ良さを保ちながらも強弱の推移(f → mf → p → pp)を表現し、後奏のpppに至ることが求められる。

#### 第7番 Andante grazioso 〈遊びの歌〉

歌詞：針を探してちょうだい 私は指ぬきを探すわ 愛しい人に シャツを縫わせてね  
ハ長調。16小節。音域は2オクターブと6度(c → a<sup>2</sup>)。細やかなアーティキュレーションを伴って下行する8小節の民謡が2回提示される。左手の伴奏は最初の提示に於いてはほぼc<sup>1</sup>のバス上に構成され、2回目にはバスがa → g → a → e → d → e → c → f → g → c<sup>1</sup>と動き、恋愛感情が彩のある和声感(旋法的なfis<sup>1</sup>や半音進行の使用)で表現されており、潤いと柔らかさが必要。

#### 第8番 Allegretto 〈子供の遊び歌〉

歌詞：やい、何しに村に来た？ ちょいと芝居をうちやしょう お笑いになったらご褒美を  
エオリア旋法。73小節。音域は2オクターブと6度(A → f<sup>2</sup>)。比較的大きな規模をもち、20小節の民謡が3回、最後は4小節割愛されて16小節で提示される。スタカートを中心として躍動的に奏された後、一瞬遊びの動きが止まるかのように2つの和音がpppで現れるので(民謡にはない)、コントロール良く最弱音を弾かなければならない。左手の伴奏は保続音や多声的要素(旋律との応答関係)を含むと共に、リズムも多彩に変化するので、十分に理解して演奏したい。

#### 第9番 Adagio - poco più vivo - Tempo I 〈歌〉

歌詞：白いゆりが一本 そら、ティサ川へ飛び込め ドナウ川へ飛び込め 顔をよくあらって  
ニ長調。47小節。音域は2オクターブ(d → d<sup>2</sup>)。テンポ感に緩急がある民謡である。Adagio(molto espr.)とPoco più mosso(poco scherzando)のテンポの差を適切にとり、後者による繰り返しフレーズを子供の生き生きした生活の様子が出るように表現しなければならない(後者は“そら、ティサ川に飛び込め、ドナウ川に飛び込め”にあたる)。一方、前者は単純な伴奏の上に伸びのある響き

で民謡の潤いを引き出す事が求められる。

#### 第10番 Allegro molto 〈子供の踊り〉

歌詞：ワラキア人、木靴で歩く 二人は楽しそう 一人の僕は 貧しく部屋の中は壁ばかり  
ドリア旋法。48小節。音域は2オクターブと7度（A→g<sup>2</sup>）。音型の反復が多い16小節の踊り歌が2回提示される。伴奏型は最初a上に、2度目はcから変化していくバスの上に形成され、舞踏的な拍頭のアクセントが大切である。ペダルを多く使用するように指示されており、impetuoso（猛烈な）という指示の通り旋律がペダルに溶けてしまわないように強いタッチが求められる。20、21の間の8分休符はブレスを意味する。

#### 第11番 Lento 無題

歌詞：何処へいったの きれいな娘よ 返しておくれ 私のきれいな娘を  
ニ長調。30小節。音域は3オクターブ（D→d<sup>2</sup>）。12小節の民謡は前半2小節のモチーフの反復と、後半4小節のモチーフの反復からなり、特に後半の1オクターブにわたる下行型は印象的であり、molto espr. と指示されている（“返しておくれ”という歌詞）。2回目の提示では左手に旋律が置かれて再びmolto espr. と指示され、同時に右手の対旋律（espr.）も美しい。コーダとなる最後の7小節はpiù sostenuto でpp と指示され、休符を挟みながら後半のモチーフが右に現れる。曲を通して巧みなアゴーギクとタッチの深みが求められる。

#### 第12番 Allegro 無題

歌詞：輪、絹のエシユテの輪 コインは丸くなきゃ マリシュカ 天使のように回っておくれ  
ハ長調。71小節。音域は4オクターブ（C→c<sup>3</sup>）。広い音域で多彩な表現上の変化が盛り込まれている。回転を表す4小節の左手伴奏（molto legato）に導かれて16小節の民謡が現れて愉快なはずみを表現し、末尾の音型は手の交差を伴い2オクターブ下で反復して一瞬ホ長調に転調（ritard.-）する。2度目の提示では右手が伴奏、左が民謡となり推移した後、一瞬イ長調に転調する。コーダでは民謡の後半部分が現れ、小節上の4分休符（大きなブレス）、音型の反行を伴いながら終結する。歯切れよいタッチで曲中の変化に対応したい。

#### 第13番 Andante 〈バラード〉

歌詞：若者が殺された 60 フォリント<sup>2)</sup> のために ドナウ川へ投げ捨てられた  
エオリア旋法。18小節。音域は3オクターブと3度（D→f<sup>2</sup>）。ゆったりした8小節の民謡は付点のリズムを多く含んで揺れを伴い、開始音の1オクターブ下に下行して終止するハンガリー民謡の典型（パルランド・ルバートとバルトークは名付けた<sup>3)</sup>）。冒頭左手の旋律は悲劇を表現する響きが必要であり、腕の使用によるタッチの深さが求められる。一方、追悼の鐘を表すかのような右手の重音の連続には、暗さが必要。次の提示では右手が旋律となり、左手と右手の内声による伴奏は

2) フォリントはハンガリーの通貨の単位。

3) バルトークは論文「ハンガリーの農民音楽」の第1章「古い様式による農民音楽」において、パルランド・ルバートという言葉を用いている（バルトーク 1988, 124-135）。

半音進行に注意して陰影をもって表現したい。

#### 第14番 Allegretto 無題

歌詞：チャナードの若者たちは ガチョウを捕まえた 首をあせてつかんでグァーグァー  
エオリア旋法。14小節。音域は2オクターブと6度 ( $G \rightarrow e^2$ )。テンポ・ジュスト（一定のテンポ、バルトークはパルランド・ルバートと対比的に用いた）による快活な曲想であり、バルトークがハンガリー民謡を分類したうちの「新しい様式による旋律」<sup>4)</sup>にあたる。9小節の民謡は2 + 2 + 3 + 2小節という構造でAA'（Aの5度上）BA、Bでは4/4 → 2/4 → 4/4 (rall.---) という拍子の変化がある。ハンガリー民謡に特徴的な逆付点や和音連打にシャープなタッチが求められる。

#### 第15番 Allegro moderato 無題

歌詞：イシュトヴァーンディ通り 僕の心はいつもそこ でも僕のチビちゃんは遠くにいる  
ニ長調。24小節。音域は2オクターブと4度 ( $A \rightarrow d^2$ )。16小節の民謡はそれぞれ4小節ずつABBAの構造をもち、BはAより5度高い位置から始まっており、第14番と同様に「新しい様式による旋律」に分類される。曲想も明るさをもつ中で淡い恋心が表現されており、反復されたBではSostenutoとespr.が指示されると共に、ritard.されてAのa tempoに戻っている。テンポ・ジュストであっても巧みな息使いによる表情の豊さが演奏に求められる。

#### 第16番 Andante rubato 〈古いハンガリーの旋律〉

歌詞：デブレツェンで6頭の子牛を盗んだ どれも鶴のような見事な毛並みだった  
ドリア旋法。12小節。音域は2オクターブと5度 ( $d \rightarrow a^2$ )。典型的なパルランド・ルバートの曲。8小節の民謡によるメロディーが、シンプルで美しい4声体のハーモニーに包まれながら提示されている。2小節単位のモチーフが語り合うように強弱の指示がなされており、小節線上には16分休符と8分休符が交互に書き添えられている（それぞれ短めのプレスと長めのプレスを意味する）。曲の美しさ故、後半4小節は全くそのままに繰り返されており、fがmeno fに変わり、最後の2小節にcalandoが加えられているのみである。

#### 第17番 Lento 〈ラウンド・ダンス〉

歌詞：私の小さな娘は 純白の衣装をまとっている こっちを向いておくれ、花嫁よ  
エオリア旋法。18小節。音域は2オクターブと5度 ( $E \rightarrow h^1$ )。8小節の民謡はAABB'の構造をもち、dolceの指示のもと繰り返されるフレーズが印象的。左手はバスのEが7小節間保続されて深い響きを生み、8小節目に現れるAisは⑨、⑩の上声部と共にa和音<sup>5)</sup>を形成しているのに驚かされる。⑪からは、左手の穏やかに進行する和音が旋律を支えている。曲を通じてテヌートタッチが求められる。

4) バルトークは論文「ハンガリーの農民音楽」の第3章「新しい様式のハンガリー農民音楽」において民謡の旋律構造について詳細に説明している（バルトーク 1988, 139-149）。

5) ハンガリーの研究家エルネ・レンドヴァイ（1925-1993）が分析に用いたバルトークに於ける典型的な和音であり、「dur-moll」から派生する（レンドヴァイ 1978, 46-48）。

### 第 18 番 Andante non troppo 〈兵士の歌〉

歌詞：ナジュヴァーラドの港に軍艦 兵士たちは 1901 年の自由の身を待ち焦がれている

ミクソリディア旋法。26 小節。音域は 3 オクターブと 2 度 ( $D \rightarrow e^3$ )。歌詞の内容からも新しい様式の民謡であり AABABA の構成をもち、各部分が 4 小節で、最後に 2 小節の余韻が加わり 26 小節となっている。曲想は勇壮であり、sonoro という指示に相応しく豊かな響きが求められる。特に A のモチーフでは一気にオクターブ上行の後に下行していく旋律線がハンガリー民謡の特徴を表わし、左手に旋律が移行する[17]からは、右手が旋律と反行して 1 オクターブと 5 度上行していき、スケールの大きな表現が求められる。

### 第 19 番 Allegretto 無題

歌詞：ドボジの居酒屋に立ち寄れば 桜の木のベンチに腰掛ける 酒代を払わせておくれ

ミクソリディア旋法。22 小節。音域は 2 オクターブと 6 度 ( $G \rightarrow e^2$ )。第 18 番から *atacca* (ad.lib.) で続き、旋法も旋律の構成 (AABABA) も同じである。B のモチーフが 3 小節であるので 4 + 4 + 3 + 4 + 3 + 4 という不規則性を含み、A のモチーフは 2/4 で始まり 4/4 に移行するという自由な拍節感をもつ。スタカート、スラー、テヌートが細やかに指示され、この民謡のもつ上機嫌の表現を引き出す柔軟な手首とほぐれた指が必要。

### 第 20 番 Allegro 〈ぶどう酒の歌〉

歌詞：バルトークは出版譜に掲載していない。

ドリア旋法。36 小節。音域は 3 オクターブと 5 度 ( $G \rightarrow d^3$ )。民謡は AA'BB'BB' の構成をもち、2 回提示される。それぞれのモチーフは 3 小節からなり、高音 ( $g^2$ ) から始まり、飛び跳ねるような動きを繰り返しながら 12 小節後にオクターブ下の  $g^1$  に終止する。直後に同じモチーフ BB' がオクターブ上で反復されており、弾けるような楽想がスタカートを多く用いて生み出されている。演奏に際しては、勢いを大胆に表現する為に、テクニックの切れ味とリズムの躍動感が求められる。

### 第 21 番 Allegro robusto 無題

歌詞：第 20 番と同様に、バルトークは出版譜に掲載していない。

エオリア旋法。24 小節。音域は 4 オクターブ ( $E \rightarrow e^3$ )。第 20 番から *atacca* (ad.lib.) で続き、民謡も全く同様の構成 (AA'BB'BB' で 2 度目の BB' はオクターブ上げられる) をもつ。robusto (力強く) という指示の通り、活発なテンポ感のもと sf やアクセントが多用されている。しかもその殆どが裏拍にあり、[3]では 1 拍目の裏に用いられている。腕の状態はバネの効果を引き出すべく柔軟に、タッチはシャープでなければならない。また、B の入りでは民族音楽らしいルバート (バルトークの自作自演が残っている) が効果的である。

### 第 22 番 Allegretto 無題

歌詞：デブレツェンへ行き 七面鳥を買わなきゃ 気を付けて 七面鳥の雄鳥が飛び出すよ

へ長調。15 小節。音域は 3 オクターブ ( $F \rightarrow f^2$ )。4 小節の民謡が最初の提示では後半のみ pp で反復して 6 小節の旋律になっている。左手は *sempre legato il basso* で滑らかさが求められ、[9]からの

重音を伴った伴奏型ではスムーズな動きが図られている。旋律には細やかな抑揚指示が付され、開始の16分音符の連打を始め繊細なタッチが求められる。後奏では一転して不協和音とヘミオラのリズムが面白く、歌詞に合った表現が必要。

#### 第23番 Allegro grazioso 〈踊りの歌〉

歌詞：こう踊るんだよ、ああ踊るんだよ シャーリとカティは どう踊るか知っているよ  
ハ長調。57小節。音域は3オクターブと4度（E → a<sup>2</sup>）。12小節の民謡はAABBの構成をもち（2度目のBはpp）、冒頭から左の保続音（c → e）に支えられて2回提示される。旋律はc<sup>2</sup>に始まり、題名に相応しい弾みをもってc<sup>1</sup>に終止している。25からは左手の伴奏型に導かれて右に旋律の断片が現れる間奏が10小節続き、3度目の提示が左手のハ長調の伴奏型を伴って現れる。自在な展開を見せる楽想を、弾むタッチで十分な変化をもって表現したい。

#### 第24番 Andante sostenuto 無題

歌詞：水、ケレシュの水は すばらしい ナマズやカワカマスが住み 新妻が水浴みをする  
イ短調。36小節。音域は2オクターブと7度（G → f<sup>2</sup>）。民謡はABAの構成をもち、原型は6 + 4 + 6小節だが、この曲ではBの前に2小節の間奏が挿入されている。19からは左手の伴奏型に変化が加えられてBAの部分再現され、25～30では左右が多声的に応答する。31からは間奏モチーフを用いた後奏が印象的であり（espr.）、全曲を通して、少ない音を物語らせる芯があって柔らかいタッチが鍵となる。

#### 第25番 Parlando 無題

歌詞：ラースローは馬を盗んだ 黒い丘のふもとで 捕まえられ 地下牢に閉じ込められた  
ドリア旋法。14小節。音域は2オクターブと4度（G → cis<sup>2</sup>）。Parlando（語るように）と指示されており、バルトークが様式分類に用いたパルランド・ルバートの典型的な曲である。フレーズは2 + 2 + 2 + 3小節で構成され、後半の2 + 3が反復される。ノンレガートの指示が多く、第24番に共通する物語るタッチと伴奏の左手3和音の深みのある弱音が必要。

#### 第26番 Moderato 無題

歌詞：愛しい君よ、来ておくれ 遠回りし過ぎないように 悲しみに沈まないように  
エオリア旋法。35小節。音域は2オクターブと5度（G → d<sup>2</sup>）。変拍子の民謡であり、2小節（3/8拍子）と1小節（2/8拍子）の組み合わせが主体で、終結のみ引き延ばされて4小節（3/8拍子）と1小節（2/8拍子）の組み合わせ（13～17、27～31）となっている。歌詞にある繊細な心情が変拍子というリズム形態に自然な抑揚を伴って溶け込んでおり、バルトークが民謡に寄せた共感を十分に感じ取ることが出来る。素朴な伴奏と共に曲想を細部まで引き出すタッチの柔らかさが求められる。

#### 第27番 Allegramente 〈冗談〉

歌詞：冗談の過激な内容のため、バルトークは出版譜に掲載していない。  
ニ長調。53小節。音域は3オクターブと5度（D → a<sup>2</sup>）。giocoso（おどけた）という指示の通り愉快さに溢れている。歌詞も民衆の飾らない語句なので、過激になっているのであろう。2 + 2 + 3

+ 2 + 3 小節の構成による民謡が、4 小節の前奏の後に左の保続音上に 3 回提示される。2 回目の提示では最後に全休符が挿入され口短調となり、3 回目の提示では再度全休符が加えられた後に民謡が終止し、コーダとなる。左右ともにスタカートとスラーをはっきり弾き分け、全休符が作る間合いを生かして、特徴的なユーモアを引き出したい。

#### 第 28 番 Andante 〈合唱曲〉

歌詞：とさかの立派な雄鳥を持ってきた 生かしておこう 頭は頭領に 首は首長に上げよう  
ドリア旋法。39 小節。音域は 2 オクターブと 7 度 (D → c<sup>2</sup>)。13 小節の厳かな民謡が 3 回提示される。なだらかな旋律のラインは抑揚に沿って 4 小節 (3/4 拍子) → 1 小節 (3/2 拍子) → 1 小節 (4/4 拍子) → 5 小節 (3/4 拍子) → 1 小節 (3/2 拍子) → 1 小節 (4/4 拍子) という変拍子で書かれ、左手は、最初にメロディーと反進行をなし、次は 1 小節遅れて 2 オクターブ下のカノンとなり、最後は密集 3 和音によって伴奏される。題名に相応しい響きの充実感が出るように、左右共に丁寧なレガートが必要。

#### 第 29 番 Allegro scherzando 〈五音音階の旋律〉

歌詞：お母さん、私の優しいお母さん ブーツが破れちゃった 誰が繕ってくれるの？  
5 音音階。56 小節。音域は 5 オクターブと 5 度 (D<sub>1</sub> → a<sup>3</sup>)。この曲集の中で最も広い音域をもち、スタカートを主体に弾けるように切れ味の良いタッチで鍵盤上を駆け巡らなければならない。5 音音階による民謡は 8 小節のシンプルなものであり、8 小節の導入モチーフが左右のユニゾンで加えられて楽曲として充実している。3 回の提示の中でそれらは音域的位置を目まぐるしく変化させ、主要音型が 4 オクターブ駆け下りて終止する。

#### 第 30 番 Allegro ironico 〈ひやかし歌〉

歌詞：教会にお日様 予鐘が鳴る 神父さんが説教 花嫁は婚礼が終わるのを待ちきれない  
ハ長調。37 小節。音域は 4 オクターブと 5 度 (C → g<sup>3</sup>)。民謡は変拍子で出来ており、3/4 拍子 × 2 と 2/4 拍子 × 2 の組み合わせが 2 度続く 8 小節である。各小節の 1 拍目にアクセントが置かれ、スタカートが多用された弾けるような性格は、題名に相応しい。最初はハ長調で右手に旋律、次にイ長調で左手に旋律、伴奏は常に保続音をもつ和音連打である。3 回目は一時的に変口長調となり伴奏型が変化する。作曲者の自作自演では 13 ~ 21 と 33 ~ 35 の右手和音ソプラノに半音の前打音が付加されてユーモアが強調されており、是非取り入れたい。

#### 第 31 番 Andante tranquillo 無題

歌詞：星よ、明るく輝いておくれ 道を照らして 若者が恋人の家にたどり着けるように  
エオリア旋法。30 小節。音域は 3 オクターブと 5 度 (Des → as<sup>2</sup>)。非常に抒情的な曲であり、12 小節で ABB'A の構成をもつ民謡による。アーティキュレーションはポルタートを主体として細やかに指示され、左手の伴奏は 7 ~ 9、20 ~ 23 の半音の動きを生かした進行等彩り豊かである。後奏は ppp であり、タッチのコントロールが求められ、全曲を通してペダルの指示と共に、詩的な歌詞の内容を表現する音色を求めることが大切である。

### 第32番 Andante 無題

歌詞：白い豆の花 昼ではなく 夜に来ておくれ イツよ、君の瞳を見つめさせておくれ

5音音階。31小節。音域は3オクターブと7度 ( $A_{s1} \rightarrow g^2$ )。恋愛を歌う10小節の民謡が2度提示され、7小節の後奏 (pp) で余韻を残して終える。冒頭左手保続音 F 上の半音進行による前奏に導かれ、オクターブの上行をもって民謡は情熱的に歌い出された後、8小節間で下行する。⑨～⑩と⑪～⑫、⑬～⑭と⑮～⑯は思いを込めるように反復され⑬からはバスが3度下がり (D)、後奏 (⑳～) ではさらに半音下がって (Des) となっており、poco a poco rallentando と共に集中力のある pp のタッチが求められる。

### 第33番 Allegro non troppo 無題

歌詞：庭で花を摘むと 足の骨を折った 私が結婚しなかったのは、神のご加護に違いない

エオリア旋法。20小節。音域は3オクターブと5度 ( $C \rightarrow g^2$ )。民謡はAABBの構成をもち(8小節)2回提示される。旋律の性格はスタカートを主体とした軽いもので、弾みのあるタッチが必要であり、2回目の提示に於けるBはオクターブ上がる。Aに於ける伴奏は和音を伴って広い音域を跳躍し、4/4拍子の第1、3拍のバスにはアクセントが指示されており、スムーズな腕の動きと確実なタッチが必要。Bでは内声に持続音を持ちながら左右がユニゾンとなり、余韻を生かして2度下行の終止音に繋げて、ため息交じりの絶望の心理を表したい。

### 第34番 Allegretto 無題

歌詞：マルギッタは遠くない 僕は鉄の馬車で通う 車輪の釘は銅 彼女の名前は秘密

エオリア旋法。15小節。音域は4オクターブと2度 ( $G_1 \rightarrow a^2$ )。ABB'AB'Aの構成をもつ。Aは2小節、BとB'は3小節であり、自由な息づかいで恋愛の機微が表現されている。ポルタートやテヌート指示が多く、歌詞の心情を引き出す為に脱力された良く機能する指先(タッチ)が必要である。伴奏型はAに於いて広い跳躍が特徴的であるのに対し、BとB'では比較的密集した配置で動き、それぞれ強弱指示 (p、mf) と合わせて響きの濃淡を引き出している。変化に対応出来る力みのないテクニックが必要。

### 第35番 Con moto 無題

歌詞：ブダの山に登れば キシュ・セレの中心が見える 女の子たちは 肩には真珠の首飾り

エオリア旋法。17小節。音域は3オクターブと6度 ( $C \rightarrow a^2$ )。ABB'AB'Aの構成をもつ変拍子であり、Aは2小節(4/4拍子)、Bは3小節(3/4拍子)で、B'は2小節(3/4拍子)と1小節(2/4拍子)、1小節(4/4拍子)の4小節であり、B、B'はAより5度上から始まるという新しい様式の旋律である。リズムカルなテンポ・ジュストの様式でありながら、変拍子やアーティキュレーションに対応し、広い跳躍を含む伴奏型を生かして故郷への想いを引き出したい。

### 第36番 Vivace 〈酔っ払いの歌〉

歌詞：10リットル飲んじまった 麻のシャツ、銅のボタン ヘイ、犬、犬のようなご機嫌さ

エオリア旋法。20小節。音域は5オクターブ ( $G_1 \rightarrow g^3$ )。8小節の民謡が2回提示され、後奏では

5 オクターブの広がりをもって2重音がffで移高しながら繰り返され終止となる。曲全体で酒が進みメートルの上りきった高揚感を表現する為に、腕の弾力を十分に用いることが必要であり、それは3のpや11のmfがもたらす変化に富んだ息づかいにも有効である。加えて指では和音をしっかりと掴み、特徴的な逆付点を正確なりズム感で活かしたい。

#### 第37番 Allegro 〈豚飼いの歌〉

歌詞：こおろぎが結婚 蚊の娘をもらう シラミがやって来る あらゆる臭い虫たちが出席  
エオリア旋法。40小節。音域は5オクターブ ( $G_1 \rightarrow g^3$ )。AA'BA'という16小節の民謡が高音部で提示された後、2小節の間奏を挟んでBA'の部分が左手に現れ、さらに2小節後にPiù vivoとなつてA'が現れ、オクターブ上で反復の後、4小節の後奏がfffで曲を締めくくる。ハンガリー民謡で代表的な「豚飼いの踊り」のリズムがエネルギッシュに表現されていると同時に対位的な書法が用いられ、左右同等に明瞭なタッチが求められる。

#### 第38番 Molto vivace 〈レゲシュの歌〉

歌詞：神様、ご加護を この家のご主人に 7頭の子牛を レゲ・レイテ 神がお許し下さった！  
へ長調。91小節。音域は2オクターブと6度 ( $F \rightarrow d^2$ )。左手の高さを変えていくオスティナートの上に12小節の民謡が繰り返し現れ、古い新年の行事で歌唱隊(レゲシュ)が練り歩く様を表わす。連続する左手の下行4音はnon legatoと指示され、速いテンポで維持する為に、指を根元から放り投げるような弾力が必要である。また右手の民謡も左とは反対に上昇する4音に始まり、4分音符による上行5度の跳躍がアクセントを伴って繰り返されており、弾力を鍵盤に伝えて表現すると良い。61~84のdim.による遠近法の表現が大切。

#### 第39番 Allegro moderato 無題

歌詞：「行ってしまうの、おまえ？」「ええ、もちろん」「2人とも行ってしまうおう！」  
エオリア旋法。71小節。音域は5オクターブと2度 ( $G_1 \rightarrow a^3$ )。8小節の民謡が7回提示されており、広い音域が活用され、駆け落ちの詩の内容を劇的に表現している。最も低く始まる冒頭左手の提示はfであり、指示されたアクセントのために1指は重さを鍵盤に伝えて深刻な響きにしたい。続く3回は右に旋律が移り(2回目は左右のユニゾン)pp→p→ppと推移し、繊細でコントロールされたタッチが求められる。4回目の提示からは左が旋律となり、右手はシンクペーションや音域の広がり、アクセントを用いて激しさが増すようにオブリガートを奏でており、力みなく研ぎ澄まされた反応のタッチが求められる。

#### 第40番 Allegro vivace 〈豚飼いの踊り〉

歌詞：フェルシェーイレグの最後の笛吹きは、37番の旋律をこう演奏した  
ミクソリディア旋法。114小節。音域は4オクターブと6度 ( $C \rightarrow a^3$ )。第37番の旋律を笛吹きが即興的に演奏したもの。豚飼いが沢山の豚を引き連れて近づいて来て、再び去って行く情景を表わす強弱法(ppp→ff→pppp)が印象的であり、軽い腕の状態にタッチする弱音と弾力をもった腕によって引き出される強音、その間の連続性が大切。曲はABA (36~51) A (52~72) BAと

いうバルトークが好んだ対称形の構成をもち、バスは常に5度が保持され、バグパイプ風である。バルトークの多くの曲に見られる戸外の響きであり、自在な即興性による旋律を、ほぐれた指によって開放的に表現しなければならない。

## 第2巻スロヴァキア民謡編

### 第1番 Allegro 無題

歌詞：もし黒桜んぼと赤桜んぼがあったなら スロヴァキアの少女は皆誇りに思うのに  
へ長調。30小節。音域は2オクターブと5度(F→c<sup>2</sup>)。2つの5小節フレーズから成る10小節の民謡が3回提示される。5度の中を小さな振幅で波打つ旋律は変化せず、左手の伴奏型が保続音上に少しずつ変化して進行していく。ハーモニーは伝統的なカデンツをなし、3回目では変ロ長調に転調する(前半の5小節)。明るく柔らかさのあるタッチが相応しい。

### 第2番 Andante 無題

歌詞：私はヴァーグ河を見おろす ねえ、一度だけじゃないの 何度もあなたを探したのよ  
へ長調。32小節。音域は3オクターブと4度(C→f<sup>2</sup>)。民謡はAABB'AA(3+3+2+2+3+3小節)の構成をもち、2回提示される。最初は左に旋律が置かれ、右手が左手の上を交差してカデンツを形成し、動きのある印象的な導入がなされる。BB'の時には右が高音部でハーモニーを添えている。一方、旋律は第1番と同様に5度の中で穏やかな波を形成し、フレーズが自由に伸縮する。2度目の提示では右に旋律が置かれ、左に保続音が現れる。一貫してレガートを中心としたカンタービレが相応しい。

### 第3番 Allegretto 無題

歌詞：2本のバラ 茶色の髪の女の子が、1本僕にくれる もう1本はあげない 私の愛の花  
へ長調。28小節。音域は2オクターブと4度(A→d<sup>2</sup>)。民謡はAABB'A(4+4+3+3+4小節)という構成。第2番から *atacca (ad.lib.)* で続き、一転してスタカートが多用された弾むような踊りの曲である。明瞭なカデンツが用いられ、速いテンポによるポルカを思わせる。p, *scherzando* という指示の通り、軽いタッチで明るい音色の演奏が相応しい。BB'の6小節目間はmf, f(2度目)となり、同じ和音を2度の提示で左右の配分を変えて強調している。

### 第4番 Andante 〈婚礼の歌〉

歌詞：母さん なんでドレスを 縫っているの あんたのためさ 私を置いていくんでしょ  
へ長調。16小節。音域は2オクターブ(c→c<sup>2</sup>)。2/4拍子の感情豊かな民謡が1度だけ提示され、最後に全休符による1小節が余韻のように加えられる。9小節目だけは3/4拍子であるが、最後の音がフェルマータ的に引き延ばされた結果であろう。左右は多声的に応答され、語りかけるような楽想を効果的に引き出している。スラーとその中の連打音にテヌートが付されているように、音を丁寧に伸ばして歌わせなければならない。7小節目最後の「|」は、間を開けないブレスを意味する<sup>6)</sup>。

### 第5番 Molto andante 〈変奏曲〉

歌詞：孔雀が飛んだ 黄金の羽が地面に落ちた 陽気に演奏をしておくれ 金の指輪がそこに  
リディア旋法。85小節。音域は3オクターブと3度（G → h<sup>2</sup>）。《子供のために》全79曲中唯一の  
変奏曲であり、テーマと3つの変奏から成る。テーマである民謡は3/4拍子、AABB（4 + 4 + 6  
+ 6小節）の2部形式、20小節。なだらかな曲線をなす優美な性格をもち、dolce と指示されている。  
左の伴奏はテーマと6度を成す柔らかな協和音が特徴的であり、バルトークの作品では珍しい。演  
奏に於いてはレガートの巧みさが求められる。第1変奏では左手にテーマがおかれ右手は多声的に  
扱われ、29と35の増4度の響きは印象的である。第2変奏では4小節の左手の和音による序奏に始  
まり、これが伴奏型として継続していくので、旋律とのバランスが大切である。第3変奏はリズム  
カルな2/4拍子となり、躍動感をもって締めくくられる。4声体の連続に於いて反行カノンが盛り  
込まれている事に注目。

### 第6番 Allegro 〈ラウンド・ダンスI〉

歌詞：魔女に3人の息子 一番目は学校 二番目は靴屋 三番目はバグパイプを一生懸命  
ハ長調。44小節。音域は2オクターブ（g → g<sup>2</sup>）。16小節の民謡が2回提示される。最初に民謡の  
主要モチーフを用いた8小節の前奏が置かれ、軽やかに曲は始まる。旋律はABB'Aの構成をも  
ち5度の中で細やかな波を描き、伴奏は保続音上に旋律と6度音程で寄り添う。2回目の提示の前  
にも4小節の前奏があり、fis<sup>1</sup>を用いた変化は曲想に楽しさを加えている。

### 第7番 Andante 〈悲しみ〉

歌詞：バルトークは出版譜に掲載していない。

エオリア旋法。16小節。音域は2オクターブと3度（G → h<sup>1</sup>）。初版にも歌詞は掲載されなかつた  
が、その大意は「悪者をドナウ河に投げ捨てて絞首刑判決を受けた義賊が少女たちの嘆願によって  
助けられた」という伝説（バップ2010, 70）。8小節の民謡が2回提示されており、メロディーには  
変化が無く、左手の伴奏でリズム（2度目はシンコペーション）と音（半音変化する順序を入れ替え）  
が変化している。抑揚の指示は細くくなされており、曲全体をレガートで深い呼吸感と共に歌うこ  
とが大切。

### 第8番 Allegro non troppo 〈踊り〉

歌詞：塔のてっぺんに、2羽の鳩 皆さん、嫉妬しないで 人が愛し合うのは素敵なこと  
エオリア旋法。34小節。音域は2オクターブと6度（E → e<sup>2</sup>）。8小節の民謡が3回提示される。  
2/4拍子でアクセントが多用されており、踊りの曲に相応しい弾む表現が鍵となる。一方で強弱の  
指示にfは一つも無く、繊細さがタッチに求められる。4小節の前奏の後、バスのeが保続されて  
旋律が現れ、2回目の提示の後に1小節の後奏と共に「」（間を開けてプレス）<sup>7)</sup>が置かれ、3回目

---

6) バルトークがB&H社宛てに書いた手紙による（バップ2000, 80）。

7) 脚注6を参照。

の提示の後に pp で 4 小節の後奏が続き終止する。

#### 第 9 番 Andante 〈ラウンド・ダンスⅡ〉

歌詞：つばみよ、花開け 鳥の緑の灌木よ、緑の灌木よ

リディア旋法。14 小節。音域は 1 オクターブと 7 度 ( $g \rightarrow f^2$ )。7 小節の民謡が 2 回提示される。p, semplice と指示されている通り、素朴に語りかける表現が相応しい。力みのない状態で鍵盤に手を置き、抑揚指示に合わせて腕のバランスをとり、指が音型を描いていくように 1 小節ごとのスラーをレガートで弾くと良い。ハーモニーは協和音中心であり、 $\boxed{5}$ の左手 3 拍目の  $b^1$  が $\boxed{12}$ では  $h^1$  に変化する点、 $\boxed{10}$ の pp には耳を澄ませて注意が必要。

#### 第 10 番 Largo 〈埋葬の歌〉

歌詞：兵舎の中に 私の恋人が 横たわる 国中の鐘を鳴らして 彼を弔って下さい

エオリア旋法。16 小節。音域は 2 オクターブと 5 度 ( $A \rightarrow e^2$ )。オスティナート風の音型(左)に乗って 4 小節の悲痛な民謡が 2 回提示される。前奏の左手には *espr.*、 $\boxed{3}$ からの右手には *molto espr.* とあり、左右の抑揚の違いを生かした深いタッチでのレガート表現が求められる。 $\boxed{7} \sim \boxed{8}$ 、 $\boxed{13} \sim \boxed{16}$ に現れる 2 重音は、交差した右手で追悼の鐘として響かせなければならない。

#### 第 11 番 Lento 無題

歌詞：酒場のはずれでバラが 3 本咲く 香り高いバラよ 3 年間香りを私に運んでおくれ

ドリア旋法。20 小節。音域は 3 オクターブと 2 度 ( $D \rightarrow e^2$ )。8 小節の民謡が 2 回、最初は左、次は右で提示される。右手のアウトバクトの保続和音に導かれる *f, sonoro* と指示された左手の旋律は、十分に腕の重さを乗せた豊かな響きが求められる。*dim.* の後、*p, dolce* で右手が旋律を受け継ぎ、pp となっていく。最初に強調が来るハンガリー風の抑揚と曲全体を俯瞰したデュナーミク表現が大切である。

#### 第 12 番 Andante rubato 無題

歌詞：私の恋人の母親は 大切なものを奪おうとする どこへ行くにも 私の道を呪うな

エオリア旋法。17 小節。音域は 2 オクターブと 6 度 ( $A \rightarrow f^2$ )。8 小節の民謡がレガートで訴えかけるように 2 回提示される。旋律は 2 小節のモチーフが 4 つで構成され、その 2 つ目に頂点が来た後、下行しながら 2 拍子から 3 拍子へ移行して感嘆が表現される (*molto espr.*)。伴奏も協和音によるレガートであり、2 回目では僅かに幅の広い動きとなる。

#### 第 13 番 Allegro 無題

歌詞：ガチョウはいるかい？ 小川に入ってシャツはビショビショ そして君を捕まえたのさ

ドリア旋法。20 小節。音域は 3 オクターブ ( $G \rightarrow g^2$ )。第 12 番から *attacca (ad lib.)* で続き、AABB (6 + 6 + 4 + 4 小節) の構成をもつ。旋律を形成する 2 小節のモチーフの開始には常にアクセントが付され、バスの保続音上で活気のある踊りが表現されている。力強さに加えて長さの異なるフレーズの息づかいや伴奏のカデンツ (後半の 4 小節フレーズではシンプルな和音型) を感じ取って演奏したい。

#### 第14番 Moderato 無題

歌詞：山で6頭の雄牛が畑を耕している 山頂は雪 雄牛たちの後ろに ヘイ、誰がいる？

ミクソリディア旋法。20小節。音域は2オクターブと4度(A → d<sup>2</sup>)。10小節の民謡が2回提示される。4つのモチーフから成り、最初と最後がfとmfで3小節、2,3番目がpで2小節(Più mosso)という話し言葉を思わせる伸縮をもつ。伴奏では、第12番と同様に協和音を中心に変化があり、素朴に恋愛を語るニュアンスが重要である。

#### 第15番 Molto tranquillo 〈バグパイプI〉

歌詞：茶色の髪の少女が踊る 靴底がすり減る 恋人は靴の修理屋さん 踊れ、踊れ、踊れ

ト長調。15小節。音域は3オクターブと5度(G<sub>1</sub> → d<sup>2</sup>)。5小節の民謡が3回現れ、pesanteの指示のもとで強いタッチで良く響く音が求められる。最初は左手が旋律、伴奏として右手はI—V<sub>7</sub>の和音がシンコペーションとなり、2,3回目は右が旋律でffに至る。旋律は主音を中心としてなだらかに動き、伴奏の和音と共にボリュームを表現すべきである。

#### 第16番 Lento 〈嘆き〉

歌詞：内容が不適當で掲載されていない。「思春期の娘への母親の嘆き」(パップ2006, 73)

エオリア旋法。12小節。音域は3オクターブと4度(H<sub>1</sub> → e<sup>2</sup>)。6小節の民謡が2回提示される。テヌートとスラーによるアーティキュレーションが鍵であり、旋律の終わり2小節(Più lento, pp)には思いを込める。伴奏は最初の提示での3小節に及ぶ2重音(3度)の持続が印象的であり、2回目に於いても倚音を生かした和声は旋律を支えている。

#### 第17番 Andante 無題

歌詞：神父の召使いには 父母がいない 少女は、塔の鍵をもち、ヤニチカだけを生かした

エオリア旋法。35小節。音域は3オクターブと4度(H<sub>1</sub> → es<sup>1</sup>)。14小節の民謡はABA'A(4+3+3+4小節)の構造をもち、両端のAはpとpiù pであり、Bでは旋律線が高まりA'へと下行する波を描き、歌詞の背後にある悲劇を深いタッチで表現したい。伴奏はI—IV—Iに始まる伝統的な和声で10のドリアの6が印象的。19からは短3度上に移高して高揚し、28~30の左手の半音進行を経てドリアの6に戻る際のdim.が大切。

#### 第18番 Sostenuto—Allegro vivace 〈おはやし歌〉

歌詞：僕は君の彼氏だったけど もう君には別な彼氏 構わないさ、町の猿がよっぽどまし！

ホ長調。40小節。音域は3オクターブと4度(Dis → gis<sup>2</sup>)。リディア旋法による4小節の前奏の後、12小節の活発な民謡が左手にホ長調で、続いて右手にロ長調で現れ、3回目は再び左手にト長調で現れると、後半の6小節は大胆にホ長調に戻って終止する。上下行が連続してスタカートで波打つので、左右共にシャープなタッチによるテンポ感の良さが必要となる。伴奏型はI—V<sub>7</sub>—Iのカデンツが反復する簡潔さ(23~28にのみIVが用いられる)がユニークである。

#### 第19番 Assai lento 〈ロマンス〉

歌詞：悲しい枝に鳥が 宿屋のおかみさん、僕の恋人は？ ああ、来たよ 扉に立っていたよ

エオリア旋法。27小節。音域は3オクターブ（E → e<sup>1</sup>）。6小節の民謡が3回提示される。それぞれの前には3小節の前奏が付され、冒頭は p, sonoro, espr.、次にオクターブ上で mf, sonoro、最後に左右ユニゾンとなり p から cresc. molto を経て f へと到達しており、波打つ音型で感情の高揚を表現するタッチが必要。民謡は全く変奏されず semplice であることが一途な恋の心情を思わせ、下行ラインが美しいバスの伴奏を伴い、pp でカデンツに至る。前奏と民謡との問いと答えが、歌詞の内容と一致している点に注目したい。

第20番 Presto 〈おいかけっこ〉

歌詞：夜明けに茨の茂みに行かないで お嬢ちゃん、フリルのスカートを引っ掛けちゃうよ

リディア旋法。27小節。音域は3オクターブと6度（E → e<sup>3</sup>）。急速なテンポで上下に波打つ8小節の民謡が f で3回提示され、全休符の後に Adagio, p dolce で後半部分がオクターブ上に現れ、大きなブレスを挟んで元の音高、tempo I、f で終止する。伴奏は保続音と共に分散和音が連続するので音量をコントロールし、活気とユーモアを表現したい。

第21番 Allegro moderato 〈冗談I〉

歌詞：飛んできて鳴いた、パンを窯ごと食べ、雄牛を角を残して食べ、まだ悲しげに…

ハ長調。59小節。音域は5オクターブと2度（G<sub>1</sub> → a<sup>3</sup>）。8小節の躍動感のある民謡が繰り返し現れ、伴奏は I - V<sub>7</sub> を保持し、3部形式をとる。冒頭では左手に旋律が置かれ歯切れよく2回繰り返された後（f → p）、più mosso となる（f）。Tempo I でエオリア旋法となって右手の旋律が悲しげに歌われ（p, dolce）、旋律線の上下行が印象的。43で左手に旋律が高い音域で再現されると（pp）、51から力強くユーモラスに3オクターブ下行して、ffに至る。

第22番 Molto allegro 〈ばかさわざ〉

歌詞：若者たちは檜の木林でヤギを捕まえた 彼らに尋ねた「私の恋人は元気かしら？」と

エオリア旋法。61小節。音域は3オクターブと6度（C → a<sup>2</sup>）。8小節の民謡が3回提示される。冒頭左手、5度の音程を結合したオスティナートが8小節の前奏となり、その動きは変化しながら全曲を貫くので、レガートながらも抑揚をもつエネルギーを湧き立たせるようなタッチが求められる。48からの後奏では右も加わりユニゾンで ff に至る。旋律は抑揚により力強い波を生み、オスティナートと共に5度の関係で音高を変えていく。

第23番 Andante tranquillo 無題

歌詞：針葉樹の黒い森 その奥深くで 石の下に水が湧く ジュジチカはその水を飲んだ

ドリア旋法。21小節。音域は3オクターブ（D → d<sup>2</sup>）。10小節の民謡がしつとりと2回提示される。まず2小節モチーフが2つで一つの波を形成し、ハンガリー的な逆付点のリズムが特徴。次に3小節モチーフ2つでもう一つの波を形成し、最後の音が1小節余分にタイで延ばされて余韻を残す。伴奏は3和音で始まり、4度の堆積へ移行し、最後には旋律とユニゾン（mf, sonoro）になる。詩を朗読するように感動を込めた深いタッチが必要。

第24番 Andante 無題

歌詞：第 19 番と同じ歌詞。

エオリア旋法。26 小節。音域は 3 オクターブと 6 度 (Cis → a<sup>2</sup>)。第 23 番から *attacca* (*ad.lib.*) で続き、一途な恋心を歌う第 19 番と同じ歌詞による 10 小節の民謡が 2 回提示される。1 回目は 2 小節モチーフが柔らかな波を描きながら継続し、最後だけが深いため息のように 1 小節タイで延ばされ、2 回目は最後から一つ前のモチーフが 1 小節タイで延びる。切ない心情を表わす柔らかなタッチが必要であり、伴奏は多声的に旋律と応答している。

第 25 番 *Allegretto* 〈スケルツァンド〉

歌詞：バルトークは出版譜に掲載していない。

ミクソリディア旋法。40 小節。音域は 3 オクターブと 5 度 (C → g<sup>2</sup>)。non legato *leggeiro* という指示のもと、意味ありげな冗談を思わせる、軽やかな下行を中心とした動き回る音型による 16 小節の民謡が、2 回提示される。左手の伴奏は旋律に付き添うようにハーモニーを作るが、17~20の間奏で跳躍に転じ、そのまま広い音域を継続し、34からの 4 度の堆積和音の連続（機能としては属 7 の導音及び 46 の和音についての倚音である）は印象的である。曲を通してリラックスした腕の状態、才気に富む奔放な表現が必要。

第 26 番 *Andante, molto rubato* 〈農夫の縦笛〉

歌詞：歌詞のない縦笛の旋律

フリギア旋法。18 小節。音域は 3 オクターブと 6 度 (H<sub>1</sub> → gis<sup>2</sup>)。縦笛による民謡が 2 回提示され、最後に余韻となる 3 小節が加わる。*molto rubato* と指示されているように、採譜された民謡は 4 分の 3 拍子ではなく、自由な息使いが鍵となる。伴奏は 5 度の重音が旋律と反進行して平行に動き、2 回目の提示では広い配置の 3 和音が旋律を支える。高い音から下行するフレーズはハンガリー風であり、詠唱風の広がりが必要。

第 27 番 *Allegro* 〈冗談Ⅱ〉

歌詞：バルトークは出版譜に掲載していない。

イ長調。25 小節。音域は 5 オクターブ (A<sub>1</sub> → a<sup>3</sup>)。旋回するような音型の繰り返しから始まる 6 小節の民謡が 2 回提示された後、モチーフの繰り返しと和音を伴うフレーズが引き延ばされ 10 小節に拡大される。dis<sup>2</sup> が印象的な音型 (dis<sup>2</sup>-e<sup>2</sup>-fis<sup>2</sup>-e<sup>2</sup>) の反復は左右が応答しながら広い音域に渡り、f ~ ff の中で和音の連続も多く、オーケストレーションを想像して色彩的な響きとなるように和音や声部間のバランスが求められる。

第 28 番 *Andante, molto rubato* 無題

歌詞：夜中に何度も通った 暗く 寒く 大変な道を 嫌ではなかった 娘達に会いに行くのが  
ドリア旋法。28 小節。音域は 3 オクターブと 2 度 (E → f<sup>2</sup>)。12 小節の民謡は、左手の減 5 を含む短 7 の和音による 1 小節の前奏に続いて 5 小節と 7 小節のフレーズからなる。*molto espr.* の旋律は詩の朗読のようなモチーフの反復を含み、細やかな強弱指示を実現して陰影豊かに奏する。14から 2 小節の間奏となり、左手は *rubato* で 3 和音が刺繍音と共に刻まれて 2 回目の提示を導き、25の「<sup>2</sup>」

での大きなブレスの後、最後の一節に万感を込めたい。

#### 第29番 Allegro non troppo 〈カノン〉

歌詞：バルトークは出版譜に掲載していない。

エオリア旋法。46小節。音域は4オクターブと5度 ( $A_1 \rightarrow e^3$ )。冒頭4小節は高音から低音へ移動しながら連打が続き、円熟期の《コントラスツ》第3楽章冒頭の微分音によるヴァイオリンの重音を思わせる。民謡は2つの6小節フレーズからなり、後半のみが繰り返されて18小節が左右1小節遅れのカノンで提示される。モチーフはアクセントやアーティキュレーションで裏拍が強調されて民族音楽のエネルギーを表現し、上行下行を繰り返す音型はカノンに相応しい。和音のバランスや強弱の変化に注意が必要。

#### 第30番 Vivace 〈バグパイプⅡ〉

歌詞：庭に2つのレタス ヤニック、私の素敵な恋人 お互いに愛し合ひましょう

ト長調。60小節。音域は4オクターブと4度 ( $G_1 \rightarrow c^3$ )。4小節が2回、6小節が2回反復される20小節の民謡が2回提示される。その中の音型も上下行が小刻みに繰り返されており、バルトークは前奏、間奏、後奏を巧みに配して単調さを避けている。アーティキュレーションを生かした軽いタッチで親しみやすさを表現し、保続バスの流れ ( $g \rightarrow d \rightarrow G$ ) も意識したい。

#### 第31番 Allegro 〈義賊の歌〉

歌詞：ヤーノシークは偉大な男 ムチを打ちたいのに ベルトを忘れた 哀れなヤーノシーク

へ長調。21小節。音域は2オクターブと5度 ( $F \rightarrow c^2$ )。4小節の民謡が3回提示され、*f, non legato* → *mf* → *p, dolce tranquillo* と変化する様が、伝説の義賊を回想するかのようである。左手には5度重音の連打による2小節の前奏、間奏、後奏があり、旋律と同様に力強く始まり徐々に弱くなっている。自然な波形をもつ民謡のユニークな変化を、正確なデユナーミクとアーティキュレーションによって表現する為、指先の集中力と腕の柔軟性が必要。

#### 第32番 Pesante 無題

歌詞：愛しいあなたが 草刈りしているのを 知ったなら エプロン一杯のバラをもっていく

ジブシー音階。20小節。音域は3オクターブと3度 ( $H_1 \rightarrow d^2$ )。aのみにbが付けられた調号は異例であり、増音程を特徴とするジブシー音階 (f-g-as-h-c-d) を形成している。ハンガリー的な逆付点が繰り返され、*sonoro* という指示の通り、弾力のある腕と手首による良く響く音で強い思いを表現したい。9小節の民謡が2回提示され、2回とも末尾が引き延ばされて10小節となっている。伴奏は弦楽器的な分散和音が保持される。

#### 第33番 Andante tranquillo 無題

歌詞：ドナウの岸で訓練 歩兵の彼に尽くした でも大尉が現れ馬をくれ 今私は乗っている

エオリア旋法。17小節。音域は3オクターブと3度 ( $C \rightarrow es^2$ )。10小節の民謡はABB'A (3 + 2 + 2 + 3小節) の構造をもち、低く始まり中央部分 (2 + 2) で高まってから徐々に静まる。逆付点が多く用いられハンガリー風であり、強く語りかけるタッチが求められる。伴奏は和音と分散和

音が交互にシンプルなカデンツをなしており、苦勞の末に優雅な身分を手に入れた顛末が最後のピカルディ終止によく表現されている。

#### 第34番 Adagio 〈お別れ〉

歌詞：もう一度振り返る ゴーヨムの山村よ ああ、恋人よ もう一度だけ 君と話がしたい  
フリギア旋法。32小節。音域は4オクターブ ( $A_1 \rightarrow a^2$ )。8小節の民謡が左手に2回、右手に1回提示される。その旋律を活かしているのは、7の和音を伴ってアウフタクトで入る対旋律であり、弱拍に強勢が置かれるため息のような音型は、深く柔らかな表現が求められ、強拍から2小節間 dim. する旋律との間で絶妙な抑揚のずれを生んでいる。続いて7の和音は小さな変化を伴って多声的に動きだし、次第に音域を上げながら高揚する表現は比類ない。<sup>28</sup>左手は ppp であり、第2巻では他に最終曲最後の1音のみである。

#### 第35番 Moderato 〈バラード〉

歌詞：ヤンコ（富豪）は牛を放す 盗賊団がきて彼を殺める 彼はローズマリーに横たわる  
エオリア旋法。70小節。音域は4オクターブと4度 ( $G_1 \rightarrow c^3$ )。義賊のバラードに類する。冒頭左右のユニゾンで重々しく提示される10小節の民謡では、2つの5小節フレーズが大きな波を描き、バルトークが時折用いる第1、2指を一体化させた奏法で強く弾く。伴奏型として7の和音やその分散和音型が保続しながらテンポが上がり、民謡は左右で反復されて<sup>44</sup>で決定的な変化を遂げた後、今一度ため息交じりに世相を語るように現れる (sempre più tranquillo)。

#### 第36-37番 Parlando, molto rubato—Allegro moderato 〈ラブソディ〉

歌詞：(36番) ヘイ！夏風が吹いてくる 緑の森よ 私の恋人を見つけたら 私のもとに運んでおくれ (37番) きれいな県庁舎には 石の牢がある 悪党のお前は 手斧をもっていくがよい  
ミクソリディア旋法。118小節。音域は5オクターブ ( $G_1 \rightarrow g^3$ )。パルランド・ルバートの恋を歌う民謡とテンポ・ジュストのはやしたてる民謡が組み合わせられてラブソディ（狂詩曲）を形成している。《子供のために》全79曲の中で2つの民謡を組み合わせたものは他になく、バルトークの意欲的な試みが成功した例である。10小節の最初の民謡では自由な息づかいが特徴的で、<sup>17</sup>ではジャズ風の和音<sup>8)</sup>が効果的である。息子ペーテルは、「父はガーシュインを高くかっていた」と述べている（バルトーク 2013, 222）。次に4小節フレーズが2回ずつ繰り返される16小節の民謡が強固なアクセントを伴って現れ、弾力のあるタッチが相応しい。以降、転調を繰り返しながら同様の運びがなされる中で伴奏型の多彩な変化が目される。<sup>92</sup>以降のコーダに於いても繰り返しジャズ風の和音が使われるのは興味深い。

#### 第38番 Lento 〈泣き歌〉

歌詞：歌詞の内容が旋律の性質と一致しないので、掲載されていない。

フリギア旋法。44小節。音域は4オクターブと3度 ( $E \rightarrow g^3$ )。16小節の民謡が左手に置かれ、2

8) クラシック音楽の3和音体系に止まらない4和音を軸に、より多くの変化音を用いたもの。即興性に富み、自由度が高い。

度提示される。f. molto espr. sonoro, poco rubato と指示された旋律は、2 度目にはそのまま左手でオクターブ上がる。しかし、より曲の内容を印象付けているのは、右の2重音による対旋律であり、柔らかな前奏に始まり、間奏、後奏では molto espr. と指示され、深い嘆きを表現する。そこに存在する4度、7度音程や半音進行には細心の注意が要求される。

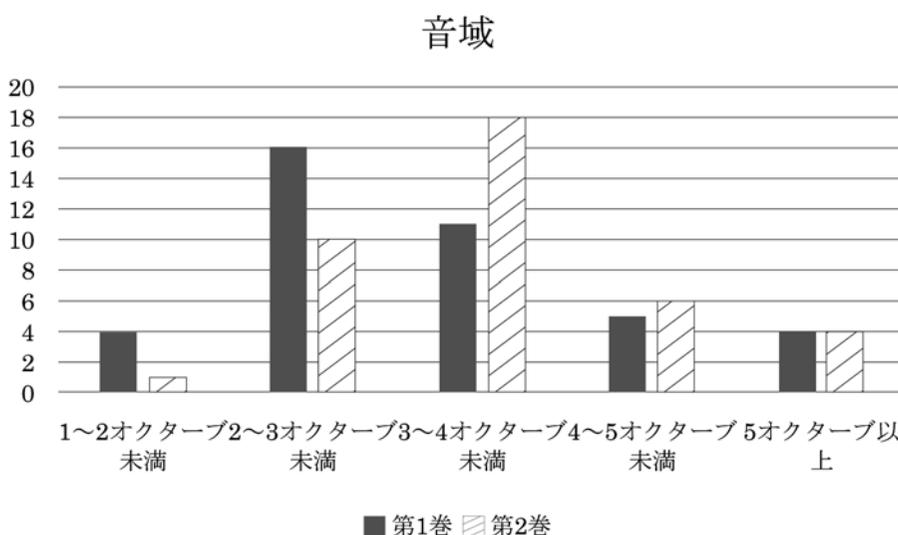
### 第39番 Lento 〈哀悼歌〉

歌詞：山麓の谷深く 父が眠っている もう聞いてはくれない 「息子よ、元気かい？」と  
 ドリア旋法。52小節。音域は4オクターブと3度（C<sub>2</sub>→e<sup>2</sup>）。quasi recitando（朗読するように）と指示された10小節の民謡が3回提示される。冒頭のアウフタクトによる2小節の前奏は哀悼の思いが溢れる曲の性格を象徴する重要なものであり、[5]~[6]、[10]~[11]に現れて1回目の旋律の唯一の伴奏となり、[35]~[36]に現れた後、[46]からの後奏で更に2度提示されて深々とした余韻で曲が閉じる。2回目の提示から、伴奏型は波打つような分散和音で旋律を支える。簡潔ながら大きな表現を導く音型を、巧みな rubato で奏したい。

## 考察

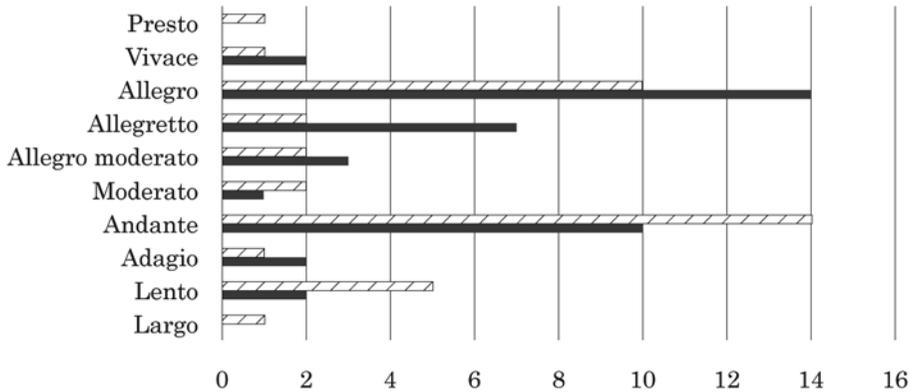
第1巻ハンガリー民謡編の第10番までは音域も狭く、文字通り子供の為に書かれた曲と言える。【図1】の通り、第1巻全体を見ても、最も多いのが2~3オクターブのものであり、第2巻の方は3~4オクターブのものが最多となっていて、より発展的な内容をもつ。

テンポに関しては、【図2】の通り第1巻で Allegro が最多であるのに対し、第2巻では Andante が最多である。拍子の面では変拍子をもつ曲が第1巻では8曲あり、第2巻では5曲であることも考慮すると、ハンガリー民謡による第1巻の方がよりエネルギッシュな性格を特徴としている事が



【図1】全2巻で用いられた音域

## 速度表示



【図2】全2巻で用いられた速度表示

分かる。

アーティキュレーションの面では第1巻の方が弾む曲が多く、ハンガリー民謡の躍動的な性格をバルトークは引き出している。一方第2巻ではレガートを主体とする曲が多く、第34、38、39番の曲集を締めくくる情緒豊かな表現は、第1巻第37番と第40番の〈豚飼いの踊り〉による躍動感や即興性とは好対照の曲想として印象的である。尚、レガートとスタカート両方の特徴をもつ曲がある為、【表1】において合計曲数が実際より多くなっている。

民謡の旋律そのものに着目すると、「ハンガリーの旋律は下降する特徴があるが、スロヴァキアの旋律は上昇して下降する山型を築く」（パップ 2006, 66）という指摘が、【表1】で明らかになっている。またフレーズの特徴をみると、より自由な不規則性をもつ曲が第1巻では12曲であるのに対し、第2巻では19曲に及び、スロヴァキア民謡がより柔軟なリズムやフレーズ構造をもつことが分かる。それを活かすべくバルトークは第2巻でより多く多声的書法を用いており、左右または左手に旋律が存在する曲も第2巻の方が多い。

音組織の面では、第2巻の方がより多く旋法が用いられており、発展的な4度の堆積による和音も伴奏型に現れる。また、アウフタクトは第2巻第11、34、39番の冒頭の伴奏型のみに見られ、第36番では「ヘイ！」と長く延ばされる音で始まるスロヴァキア民謡の特徴も見られる。尚、ハンガリー民謡には、言語の特性上アウフタクトは用いられていない<sup>9)</sup>。

両曲集の関連に目を向けると、第1巻第14、15、24、31、34、35、37番のように再現部をもつ構成は西欧音楽に影響を受けており<sup>10)</sup>、それはスロヴァキアにも伝わったことが第2巻第2、3、6、

9) バルトークは論文「ハンガリーの農民音楽」の第1章「古い様式による農民音楽」中で指摘している（バルトーク 1988, 126-127）。

10) バルトークは論文「ハンガリーの農民音楽」の第3章「新しい様式のハンガリー農民音楽」の中で指摘している（バルトーク 1988, 145）。

【表1】書法の比較

	第1巻	第2巻
変拍子	14, 19, 25, 26, 28, 30, 32, 35 (全8曲)	4, 11, 12, 27, 39 (全5曲)
アーティキュレーション＝スタカート主体	1, 5, 6, 8, 9, 12, 14, 15, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 40 (全27曲)	3, 8, 11, 13, 18, 21, 25, 29, 30, 31, 35, 36, 37 (全13曲)
アーティキュレーション＝レガート主体	2, 3, 4, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 16, 17, 18, 22, 24, 26, 28, 31, 32, 39 (全19曲)	1, 2, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 19, 20, 22, 23, 24, 26, 27, 28, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 38, 39 (全30曲)
旋律のスタイル＝下行型主体	1, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 26, 31, 32, 33, 34, 36, 37, 39, 40 (全29曲)	11, 13, 25, 26, 27, 28, 32, 33, 34, 38 (全10曲)
旋律のスタイル＝山型をなす	3, 15, 17, 24, 25, 27, 28, 29, 30, 35, 38 (全11曲)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 29, 30, 31, 35, 36, 37, 39 (全29曲)
フレーズの不規則性	11, 12, 14, 19, 25, 26, 27, 28, 31, 34, 35, 38 (全12曲)	2, 3, 4, 5, 9, 13, 14, 15, 17, 19, 23, 24, 27, 28, 32, 33, 35, 36, 39 (全19曲)
多声的	1, 4, 8, 11, 18, 24, 28, 37, 39 (全9曲)	4, 5, 6, 10, 19, 22, 24, 27, 29, 34, 36-37, 38, 39 (全14曲)
左右または左手に旋律(民謡)が存在	11, 12, 13, 18, 28, 29, 30, 37, 39 (全9曲)	2, 5, 11, 15, 18, 19, 21, 29, 34, 35, 36-37, 38 (全13曲)
調性をもつ	1, 2, 4, 5, 7, 9, 11, 12, 15, 22, 23, 24, 27, 30, 38 (全15曲)	1, 2, 3, 4, 6, 15, 18, 21, 27, 30, 31 (全11曲)
旋法・5音音階による	3, 6, 8, 10, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 25, 26, 28, 29, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 39, 40 (全25曲)	5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 19, 20, 22, 23, 24, 25, 26, 28, 29, 32, 33, 34, 35, 36-7, 38, 39 (全28曲)
4度和音をもつ	17 (全1曲)	23, 25, 26, 35, 36-7, 38, 39 (全8曲)
保続音またはオスティナートをもつ	3, 4, 5, 6, 7, 10, 12, 13, 17, 23, 27, 30, 32, 38, 40 (計15曲)	1, 2, 6, 8, 10, 11, 13, 15, 18, 20, 21, 22, 30, 31, 35 (全15曲)

17、33番において認められ、民族音楽に特徴的な保続音またはオスティナートは第1、2巻共に15曲で見られるという共通点が浮かび上がる。さらにハンガリー民謡に特徴的な逆付点のリズムは、第2巻11、23、32、33番にも現れており、バルトークは東欧の民謡について次のように述べている。「それぞれに性質の異なった音楽相互の接触は、(中略)新しい音楽様式の誕生を促進しました。もちろん、同時に、それまでの古い様式も生き続け、こうして、それらが音楽の豊かな富をもたらしたのです」(バルトーク 1988, 298)。

演奏に際しては、ハンガリー民謡編、スロヴァキア民謡編それぞれの特色と、両曲集の間に存在する共通点を同時に把握していくことが必要となる。

## 結び

《子供のために》第1巻、第2巻はバルトークがハンガリー及びスロヴァキアでの精力的な民謡収集を元に作曲したものであり、彼の全作品の中で最も民謡の原型が活かされている曲集の一つである。本論では民謡の歌詞を要約して曲想を把握し、用いられている調性や旋法、音域、曲の構成、フレーズの特徴、アーティキュレーション、伴奏型の書法等を精査した。その結果、第1巻には躍動的な性格、第2巻には陰影を重視した性格が浮かび上がると同時に、全79曲を通して祖国及び隣接する国の民謡への深い共感が作品のなかで息づいており、両国の民謡相互の影響も認められる。表現力豊かな演奏の為には、個々の曲への深い理解と共に、両曲集の関連性をも把握することが大切であろう。

1907年バルトークは母校のブダペスト音楽院（現リスト音楽院）でピアノ科教授に着任しており、1908～1909年に民謡の楽想を簡潔なピアノ曲としてまとめた（オクターブは用いていない）動機には、ロジュニャイ社との子供向けのピアノ作品を出版する契約があったことは確かだが、結果として《子供のために》全作品は民謡から得た果実を自己の作品の中で昇華していく彼の原点になったことが分かる。後年バルトークは、教育的な目的と同時に自己の作曲技法をまとめるかのように153曲からなる《マイクロコスモス》を書き残している。今後、そこに向けて研究を進めていきたい。

### ■参考文献

- バルトーク、ベーラ 1988 『バルトーク音楽論集』（あごら叢書）岩城 肇（訳） 東京：御茶ノ水書房。
- バルトーク、ペーター 2013 『父・バルトーク——息子による大作曲家の思い出』 村上泰裕（訳） 東京：スタイルノート。
- レンドヴァイ、エルネ 1978 『バルトークの作曲技法』 谷本一之（訳） 東京：全音楽譜出版社。
- Lampert, Vera. 2008. *Folk music in Bartók's compositions: A source catalog (Arab, Hungarian, Romanian, Ruthenian, Serbian, and Slovak melodies)*. Budapest: Hungarian heritage house, Herikon.

### ■楽譜

- バルトーク、ベーラ 2000 『ピアノ作品集①』 編集・運指 パップ晶子 東京：音楽之友社。
- バルトーク、ベーラ 2005 『子供のためにⅠ』 編集・運指 パップ晶子 東京：音楽之友社。
- バルトーク、ベーラ 2006 『子供のためにⅡ』 編集・運指 パップ晶子 東京：音楽之友社。
- バルトーク、ベーラ 2008 『バルトーク集7』 編集・校訂 山崎孝 東京：春秋社
- Bartók, Bela. 1946. *Gyermekeknek I , II , III , IV* revised by composer. Budapest: Editio Musica Budapest.

## **Béla Bartók's For Children: clarifying performance through practice and musical analysis**

**Shinnosuke TASHIRO**

This paper examines Béla Bartók's *For Children*, Vols. I and II. These works were composed in 1908/09 and published by Rosznyi in 1909 as *For Children* based on Hungarian folk songs I, II and *For Children* based on Slovak folk songs. In 1943, Bartók revised them in the United States as *For Children Vol. I*, Little pieces for beginners (without octaves) based on Hungarian children's and folk songs, and *For Children Vol. II*, Little pieces for beginners (without octaves) based on Slovak children's and folk songs. At present, the revised edition is generally used.

These works were accompanied by the lyrics of each folk song. This paper thus comments on the relationship between the lyrics and music for each of the 79 pieces constituting this work. It also examines the tonality, structure, dynamics, style of melody, articulation, characteristics of the phrases, and method of harmony in each work. With the help of these results, the performance method of these pieces is clarified.

In 1907, Bartók became a piano professor at the Budapest National Academy of Music (presently known as the Liszt Academy of Music). He is the author of one of the best piano textbooks, *For Children Vols. I and II*, with folksongs attracting the greatest interest. While Vol. I embodies the energetic Hungarian spirit, Vol. II accurately captures discernable Slovak nuances. Moreover, these works are replete with Bartók's affinity for folk music, and it is necessary to understand not only each work, but also the common character of both volumes to deliver an expression-filled performance.

## バルトーク《子供のために》の演奏法への提言

### ——実践と分析を通して——

田代慎之介

本研究レポートは、ハンガリーの作曲家ベーラ・バルトークの《子供のために》第1巻、第2巻について取り上げる。1908～09年に書かれたこれらは、当初ハンガリー民謡編Ⅰ、Ⅱとスロヴァキア民謡編Ⅰ、Ⅱとして1909年にロジュニヤイ社から出版され、作曲者が渡米後の1943年に自身の手で改訂され、現在の第1巻ハンガリー民謡編40曲、第2巻スロヴァキア民謡編39曲の全79曲にまとめられた。現在演奏されるのは、殆ど改訂版である。

第1巻はハンガリー民謡、第2巻はスロヴァキア民謡によって書かれ、例外を除き民謡の歌詞も全て巻末に掲載されている。本研究では、その内容をバルトークがどのように曲想に反映させているかを全79曲について検証し、如何にして実際の演奏に生かすべきかを考察する。各曲における調性や構成、旋律線や表現上（アーティキュレーション、デュナーミク、フレーズの性格、和声法等）の特徴を明らかにして作曲者の意図を汲み取ることは、総合的に曲想を生かす演奏法と結びつく。

1907年、バルトークは母校のブダペスト王立音楽院（現リスト音楽院）ピアノ科教授に任命され、全生涯にわたり第一級のピアニストとして活躍した。民謡という彼が最も惹かれる素材を用いて確かな教材を提供したのが《子供のために》全79曲である。第1巻には躍動的な性格、第2巻には陰影を重視した性格が見出されると同時に、全79曲を通して祖国及び隣接する国の民謡への深い共感が作品のなかで活かされており、表現力豊かな演奏の為には、個々の曲への深い理解と共に、両曲集の関連性をも把握することが大切という結論に至った。